



なぜここにこの碑が…

第二次世界大戦が終結して今年で56年になります。沖縄は唯一の地上戦があり浦添でも激しい戦闘が繰り広げられました。この戦闘で浦添市全体では9,217人の犠牲者が出ました。中でも浦添村前田(当時)地区は住民の58・8%(549人)が死亡する状況でした。その前田に慰霊碑があるをご存じでしょうか。「前田高地平和之碑」です。浦添市には「愛國知祖の塔」(愛知県出身戦没者の慰霊碑)が浦添城跡内に建立されていましたが、平成6年に沖縄県平和記念公園に移転されました。

前田地区は圧倒的な火力を持ったアメリカ軍が空からの爆撃、海からの艦砲射撃、地上からの攻撃が行われ「ありったけの地獄を一つにまとめたような」状況だったと伝えられています。その前田を死守しようと北海道、山形県、沖縄県出身者で構成された山三四七五部隊第二大隊は激戦のなか約600人の戦死者を出しました。この慰霊碑は前田高地で玉砕した同大隊所属戦没者の御霊を慰めるとともに恒久平和の願いを込めて山三四七五部隊第二大隊戦友会が建立したものです。

6月23日は慰霊の日、沖縄戦で組織的な抵抗が終ったとされている日です。この日は戦争で亡くなった人々の冥福を祈り、戦争の悲惨さや平和の大切さを考えてみましょう。

平和之碑を清掃

山形新聞の記事で同慰霊碑が荒れ放題で管理状態が悪いことを山形沖縄県人会から聞いた社会福祉法人沖縄コロニーセンター(山城永盛理事長)が昭和58年から毎年2回、慰霊の日と彼岸の日前後にボランティアで清掃作業を行っています。毎回職員に呼びかけ、有志を集い、約30人が参加。最近は大ゴミなどを捨てる心ない人が増えているようですが、それにも負けず今年も清掃作業を通して平和の尊さを守っています。

